

令和 6 年度

学校評価アンケート結果

津乃峰小学校

令和6年度学校評価アンケート結果について

I アンケートの集計結果

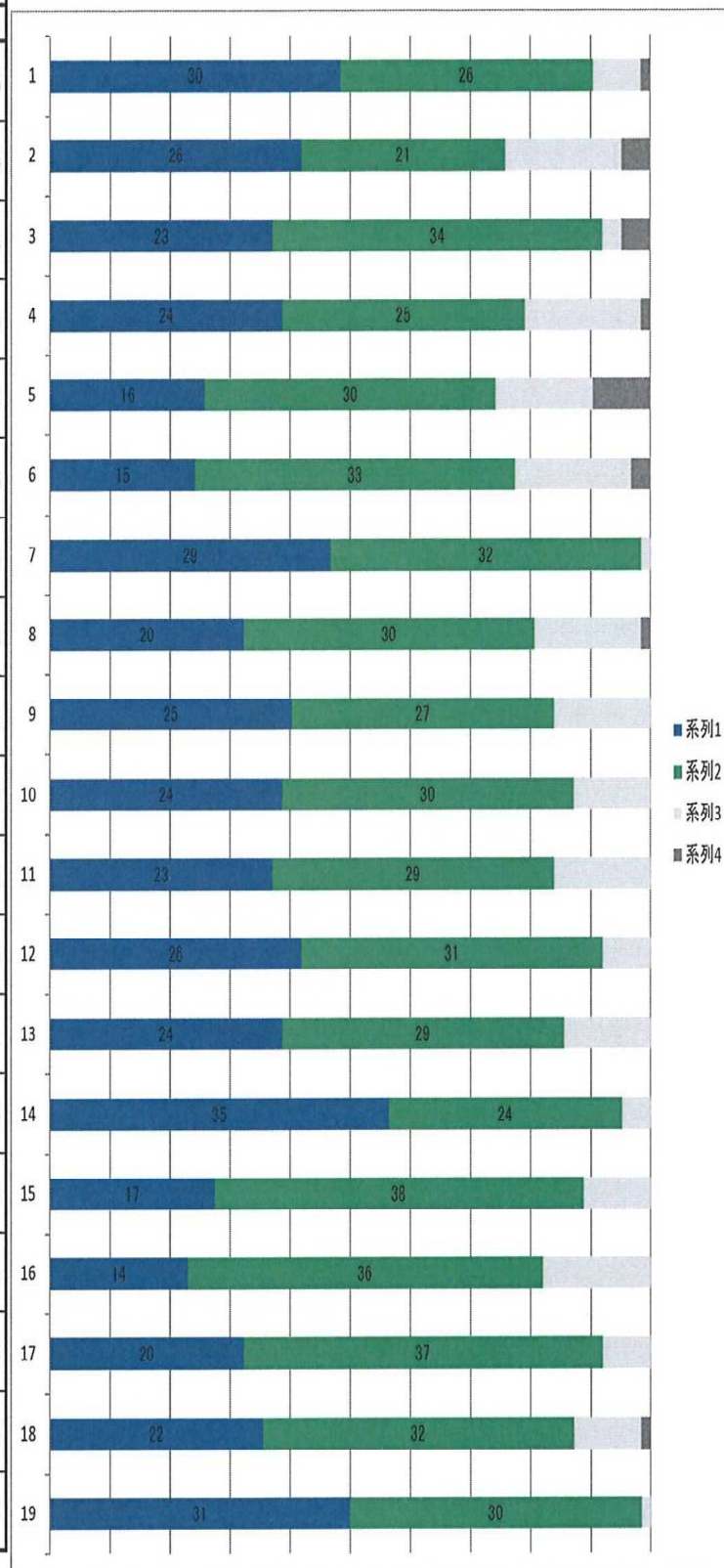
◇保護者

集計数 62

回収率 82.7% (62/75)

[1-そう思う 2-少しそう思う 3-あまりそう思わない 4-そう思わない]

評価項目	全保護者				比較	
	1	2	3	4	R5	R6
1 子どもは、楽しく学校へ通っている。	30	26	5	1	90%	
2 子どもは、「早ね・早おき・朝ごはん」が できている。	26	21	12	3	76%	
3 子どもは、生活に必要なきまりや約束 を守っている。	23	34	2	3	92%	
4 子どもは、自分から進んであいさつが できている。	24	25	12	1	79%	
5 家庭学習(宿題や自主勉強など)がで きている。	16	30	10	6	74%	
6 子どもは、自分の思いや考えをきちん と伝えることができている。	15	33	12	2	77%	
7 子どもは、自分や友達を大切にしてい る。	29	32	1	0	98%	
8 子どもは、学校で学んだことを生活 の中で活用している。	20	30	11	1	81%	
9 子どもは、自分たちの住んでいる町(阿 南市、津乃峰町)がすきだ。	25	27	10	0	84%	
10 学校は子どものよさを知り、そのよさを 伸ばそうと支援している。	24	30	8	0	87%	
11 学校は、学力向上に向けて熱心に取り 組んでいる。	23	29	10	0	96%	84%
12 学校は、体力づくりに積極的に取り組 んでいる。	26	31	5	0	92%	
13 学校は、いじめのない学校づくりや人 権教育に積極的に取り組んでいる。	24	29	9	0	91%	85%
14 学校は、防災教育や安全教育に積極 的に取り組んでいる。	35	24	3	0	95%	
15 学校は、情報モラル教育に積極的に取 り組んでいる。	17	38	7	0	89%	
16 学校は、ICTを活用した教育に積極 的に取り組んでいる。	14	36	11	0	82%	
17 学校は、安心して勉強や生活ができる ように環境整備に努めている。	20	37	5	0	90%	92%
18 学校からの情報発信により、学校の取 組や子どもの様子がよく分かる。	22	32	7	1	89%	87%
19 学校行事は、子どもにとって有意義な ものとなっている。	31	30	1	0	98%	



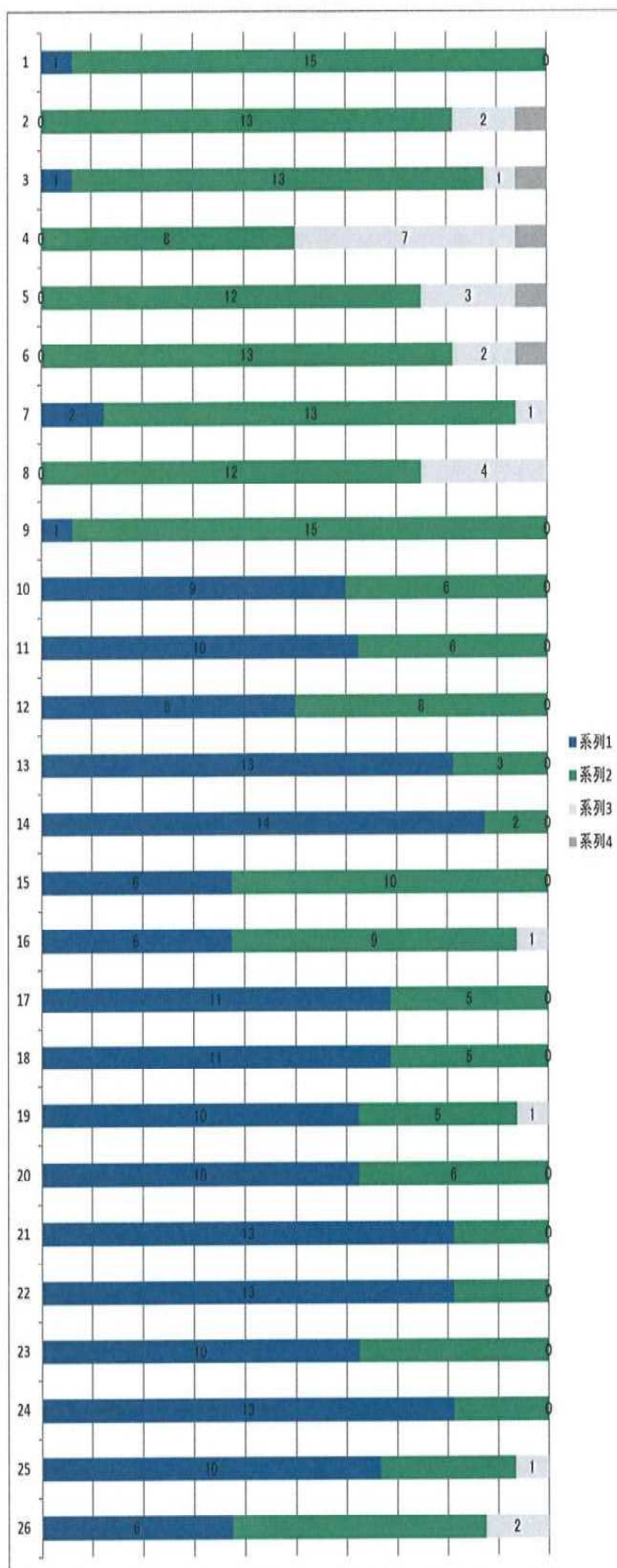
◇教職員

〔1ーそう思う 2ー少しそう思う 3ーあまりそう思わない 4ーそう思わない〕

	評 価 項 目	教職員				比 較	
		1	2	3	4	R5	R6
1	児童は、楽しく学校へ通っている。	1	15	0	0	89%	100%
2	児童は、「早ね・早おき・朝ごはん」ができてい	0	13	2	1	81%	
3	児童は、生活に必要なきまりや約束を守って	1	13	1	1	88%	
4	児童は、自分から進んであいさつができてい	0	8	7	1	79%	50%
5	児童は、家庭学習(宿題、自主勉強など)の習	0	12	3	1	75%	
6	児童は、自分の思いや考えをきちんと伝える	0	13	2	1	81%	
7	児童は、自分や友達を大切にしている。	2	13	1	0	94%	
8	児童は、学校で学んだことを生活の中で活用	0	12	4	0	75%	
9	児童は、自分たちの住んでいる町(阿南市、	1	15	0	0	100%	
10	学校は子どものよさを知り、そのよさを伸ばそ	9	6	0	0	100%	
11	学校は、学力向上に向けて熱心に取り組んで	10	6	0	0	100%	
12	学校は、体力づくりに積極的に取り組んでい	8	8	0	0	100%	
13	学校は、いじめのない学校づくりや人権教育	13	3	0	0	100%	
14	学校は、防災教育や安全教育に積極的に取	14	2	0	0	100%	100%
15	学校は、情報モラル教育に積極的に取り組ん	6	10	0	0	100%	
16	学校は、ICTを活用した教育に積極的に取り組	6	9	1	0	84%	94%
17	学校は、安心して勉強や生活ができるように	11	5	0	0	100%	
18	学校は、学年だよりやHPなどにより情報発信	11	5	0	0	100%	100%
19	学校行事は、児童にとって有意義なものとな	10	5	1	0	100%	94%
20	「命と人権、安全を大切に、たくましく生きる	10	6	0	0	100%	
21	問題が起こったとき、組織的対応ができてい	13	3	0	0	100%	
22	児童理解に努め、一人一人を大切にしてい	13	3	0	0	100%	
23	授業の組み立てや発問を工夫し、授業改善に	10	6	0	0	100%	
24	教職員間でよく話し、風通しのよい職場づく	13	3	0	0	100%	
25	優先順位を付けて業務を行うなど、業務の効	10	4	1	0	95%	93%
26	情報教育(ICT)によって指導環境が向上した	6	8	2	0	88%	

回収率 94.1% (16/17)

集計数 16

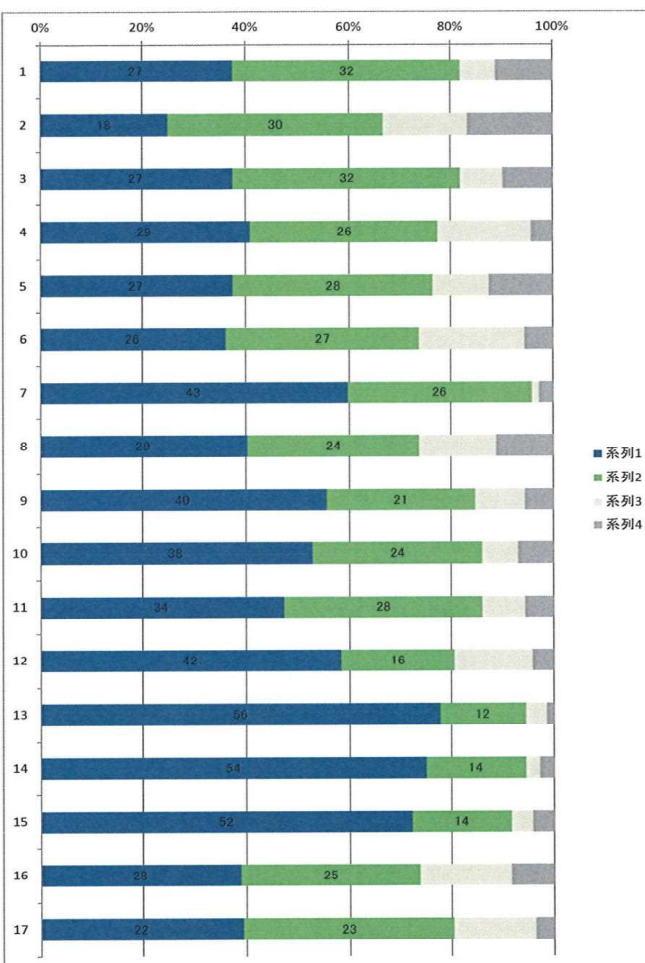


◇児童

回収率 96.0% (72/75)

集計数 72
 (1-そう思う 2-少しそう思う 3-あまりそう思わない 4-そう思わない)

	評 価 項 目	全児童				比較	
		1	2	3	4	R5	R6
1	学校へ行くのが楽しい。	27	32	5	8	89%	82%
2	「早ね・早おき・朝ごはん」ができています。	18	30	12	12	71%	67%
3	生活に必要なきまりや約束を守っている。	27	32	6	7	86%	82%
4	自分から進んであいさつができています。	29	26	13	3	90%	77%
5	家庭学習(宿題や自主勉強など)ができています。	27	28	8	9	81%	76%
6	自分の思いや考えをきちんと伝えることができています。	26	27	15	4	74%	
7	自分や友達を大切にしている。	43	26	1	2	96%	
8	授業で学習したことを生活の中で使おうとしたり考えようとしていたりしている。	29	24	11	8	80%	74%
9	自分たちの住んでいる町(阿南市、津乃峰町)がすきだ。	40	21	7	4	92%	85%
10	先生は自分のよいところやがんばっていることをほめたり、はげましたりしてくれる。	38	24	5	5	81%	86%
11	授業は、楽しく分かりやすい。	34	28	6	4	86%	
12	休み時間に外で遊んだり体育の時間に楽しく運動したりしている。	42	16	11	3	81%	
13	どんな理由があってもいじめや差別はいけないことだと学習した。	56	12	3	1	94%	
14	地震や津波などの災害から避難する方法や交通安全、不審者から身を守る方法についてきちんと学習した。	54	14	2	2	94%	
15	携帯電話やスマホ、インターネットのルールを守るのは大切なことだと学習した。	52	14	3	3	92%	
16	タブレットなどを使った学習によって、授業がわかりやすくなった。	28	25	13	6	82%	74%
17	学校は、安心して勉強や生活ができるように環境を整えてくれている。	22	23	9	2	80%	



	項 目	比 較	
		R5	R6
1	子どもは、楽しく学校へ通っている。	保護者 89%	90%
2	子どもは、「早ね・早おき・朝ごはん」ができています。	保護者 71%	76%
3	子どもは、生活に必要なきまりや約束を守っている。	保護者 86%	82%
4	子どもは、自分から進んであいさつができています。	保護者 90%	79%
5	家庭学習(宿題や自主勉強など)ができています。	保護者 81%	76%
6	子どもは、自分の思いや考えをきちんと伝えることができています。	保護者 74%	77%
7	子どもは、自分や友達を大切にしている。	保護者 98%	96%
8	子どもは、学校で学んだことを生活の中で活用している。	保護者 81%	81%
9	子どもは、自分たちの住んでいる町(阿南市、津乃峰町)がすきだ。	保護者 92%	84%
10	学校は子どものよさを知り、そのよさを伸ばそうと支援している。	保護者 87%	86%
11	学校は、学力向上に向けて熱心に取り組んでいる。	保護者 96%	84%
12	学校は、体力づくりに積極的に取り組んでいる。	保護者 92%	81%
13	学校は、いじめのない学校づくりや人権教育に積極的に取り組んでいる。	保護者 91%	85%
14	学校は、防災教育や安全教育に積極的に取り組んでいる。	保護者 95%	94%
15	学校は、情報モラル教育に積極的に取り組んでいる。	保護者 89%	92%
16	学校は、ICTを活用した教育に積極的に取り組んでいる。	保護者 82%	82%
17	学校は、安心して勉強や生活ができるように環境整備に努めている。	保護者 92%	80%
18	学校からの情報発信により、学校の取組や子どもの様子がよく分かる。	保護者 90%	87%
19	学校行事は、子どもにとって有意義なものとなっている。	保護者 98%	

Ⅱ 考察と集計結果を踏まえての今後の取組について

◇児童の様子に関すること（1～9）

7「自分や友達を大切に」については、児童・保護者とも9割以上の肯定的な回答が得られているが、2「早ね・早おき・朝ごはん」、4「あいさつ」、5「家庭学習」、6「自分の思いを伝える」については、保護者・児童ともに十分でないと感じていることが分かった。児童と保護者の差が見られたのは、3「きまり」児童82%、保護者92%、1「学校が楽しい」児童82%、保護者90%、8「学んだことを生活に活用」児童74%、保護者81%だった。

- ① 学校全体で「早ね・早起き・朝ごはん」を呼びかけ、基本的な生活習慣が身に付くよう家庭と協力しながら継続した取組を行っていく。
- ② あいさつの心地よさを児童が実感できるよう周りの大人から進んであいさつするとともに、児童のあいさつ運動（委員会活動等）を継続して行う。
- ③ 自分の思いや考えが伝えられるよう、朝の会での1分間スピーチや授業でペア学習やグループ学習を取り入れるなど、児童が発表する機会を多くし、伝える力を育てていく。
- ④ 家庭学習の習慣が身に付くように、「家庭学習の手引き」を十分活用したり、自主勉強のやり方を伝えたりし、継続的に取り組めるよう声かけを行う。
- ⑤ 学校のきまりについては、児童の規範意識が高まるよう全教職員で共通理解し指導するとともに、保護者の方にもしっかり周知し、家庭でもきまりの大切さについて話をしてもらえるようはたらきかける。
- ⑥ 児童が学校が楽しいと感じられるよう、児童が主体となって活動できる場を特別活動等で積極的に取り入れ、達成感や自己肯定感を高めていく。

◇教育活動に関すること（10～19）

14「防災教育・安全教育」については児童・保護者とも9割以上肯定的な回答が得られた。継続して防災教育に取り組んできた成果だと考える。また、19「学校行事」12「体力づくり」については保護者から9割以上肯定的な回答が見られた。保護者や地域が一体となって秋まつりや運動会などの学校行事を伝統的に行ってきたからだと推察する。児童の回答では10「先生は自分の～をほめたりはげましたり」で肯定的な回答が前年度より大きく増えている。教職員のポジティブな行動支援（プラスの言葉がけ）が増えてきたことが要因と考えられる。一方、16「ICT活用」、11「学力向上」については、2割弱の人が十分でないと感じていることが分かった。13「いじめのない学校づくり」（児童94%、保護者85%）については、児童と保護者の回答に差が見られ、十分でないと感じている保護者が児童よりも多くいることが分かった。

- ① 「学力向上」については、「読むこと」「書くこと」「計算」についても反復練習を取り入れ、基礎・基本の定着を図る。また、児童が楽しく学ぶことができるように、友達と関わりながら主体的に学習に取り組むことができる工夫等、今後も授業改善を行う。
- ② 「ICT活用」については、授業でタブレットを有効に活用できるよう、ICTに関する教職員研修を行い教職員のスキルアップを図るとともに、家庭でのタブレット活用について保護者の理解・協力を得る。
- ③ 「いじめのない学校づくり」については、定期的なアンケート調査だけでなく、日々の児童の様子をしっかりと観察し、早期発見・早期対応に努める。また、道徳の授業や人権学習を通して、いじめや差別を許さない心や態度を育てていくとともに、学校での取組を積極的に情報発信していく。
- ④ 「情報モラル教育」については、今後も全ての学年で年間指導計画に位置付け、出前授業を行ったり、保護者と一緒に学べる機会を設けたりするとともに、継続的に指導していく。家庭でのSNSの使用のルールをしっかり決め、法律で定められたアプリの使用年齢を守るよう啓発していく。

- ⑤「開かれた学校」をめざし学校の教育活動等を学校だより、ホームページ等で今後も発信していく。
また、保護者が安心できるように電話連絡や連絡帳を通じて児童の様子を丁寧に伝えていく。

◇学校経営に関すること

20「命と人権、安全を大切にする」児童の育成、21「組織的対応」、22「児童理解」、23「授業改善」、23「風通しのよい職場環境」については、全職員から肯定的な回答が得られている。しかし、1「業務の効率化」については昨年度より2ポイント下がっており、継続して業務改善に取り組んでいく必要がある。26「情報教育による指導環境の向上」は肯定的回答は88%となっており、誰もができるICTの活用に向けて取り組まなければならないと考える。

- ① どんな小さなことでも周りの職員に伝えとともに、互いに声をかけ合う風土をつくっていく。
困りごとや悩みごとはひとりで抱え込まないよう常に声かけし、組織的な対応ができるよう共通理解を図る。
- ② 業務改善については、学校行事の練習の見直しや、会議の精選ややり方の見直しを行う。また外部講師や学びサポーター、学校ボランティアなど、外部人材を積極的に活用し、教職員の負担を軽減する。
- ③ デジタル教科書やタブレット端末、校務支援システムなどICTについて、校内研修を設けたり、ICT支援員の来校日に質問事項をまとめ教えてもらったりし、ICTの活用促進を図っていく。また、常にOJTを意識し、互いに尋ね合いや教え合いができる環境づくりをする。
- ④ 今後も組織的対応ができるようどんな小さなことでも周りの職員に伝えとともに、互いに声をかけ合う風土をつくっていく。困りごとや悩みごとはひとりで抱え込まないよう常に声かけし、組織的な対応について共通理解を図る。